

## 日本創傷治癒学会ガイドライン作成 ワーキング委員会の活動方針

ガイドライン作成ワーキング委員会担当理事・委員長 吉田 昌

ガイドライン作成ワーキング委員会は、平成18年から故・大谷吉秀教授（NewsLetter47;2008.10）が担当されていた委員会であります。日本創傷治癒学会が、様々な分野の医療従事者が集まるscientificな学会として機能することを願いながら亡くなられた大谷先生の後、当委員会を担当させていただきました。

ガイドライン作成ワーキング委員会としては、まず、コアとなるメンバーに集まっていただき、どのようなものを、どのような手順で作成してゆくか、ご意見をいただこうと思っております。現在の基本的な考えとしては、ひとつの診療科に限定したテーマではなく、外科総論的に多くの科が参考にできるものがよいと思われまます。胸部外科・腹部外科など、各科に共通な創傷治癒で、形成外科の専門の先生の視点からも受け入れられる、現実的なものが望まれます。

一般的な外科医は、伝統的に、手術の内容、体の中の手術内容にその労力のすべてを費やしてきた歴史がありました。現在では、手術成績は向上し、長期生存者に対して、「より良く治す」ことにも関心が向けられています。これには、患者さんの視点からの「満足度」が重要となります。この満足度に傷の問題は大きく影響するはずで、まず、傷が小さいほうが大きいよりも「満足度」が高いと考えるのは当然のことで、鏡視下手術がこれ程普及したのを見れば明らかなことです。現在、多くの外科医は「より綺麗に治す」ことに関心がありますが、たとえば、腹部外科のみで議論をすれば、感染の予防などにテーマは限定されてしまい、皮膚の縫合・真皮の扱いなどの専門的技術に加え、傷のケアまでの総合的な指針すべてに精通した人は、ごく限られていると思います。したがって、ニーズに対して供給のできない分野となっている可能性があります。

手術の中には、清潔手術、準清潔手術、汚染手術があり、臓器を限定せず、または特殊な場合を併記して、いくつかのカテゴリー分けをすることができると思います。また、長時間の手術、緊急な手術など、創の閉鎖に時間を十分掛けられない手術と、時間をかけられる手術などの場合分けもあるかもしれません。このような場合分けをして、簡易な方法も提示が可能かどうか、などをデータ・知識・経験をご教示いただきながら議論してゆきたいと考えております。これまで、委員会の活動開始にあたっては、



NEWS  
LETTER

日本創傷治癒学会

2010.6  
No.57

### ●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学医学部外科学教室内

tel. 03-3353-1211

(内線62269)

fax.03-3353-2681

e-mail: info@jswh.com

URL: <http://www.jswh.com>

お時間をいただいております。今後、活動を進めてゆくに当たっては、会員の皆様のご指導・ご協力をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

### 〈オンライン購読検討に関するアンケート〉を実施いたします。

- ★現在正会員の皆様には、本学会機関誌「Wound Repair and Regeneration」を年6回お届けしております。しかし、近年学術雑誌の電子ジャーナル化が急速に進んでいるのは、皆様もよくご存知のことと思います。さらに昨今の厳しい経済状況や学会の法人化に向けた動きの中で購読方法の変更を検討する必要がでてきました。そこで出版社より提示された購読料をもとに、下記の2通りの購読方法より改めて選択していただくことを検討しております。
- ★なお、本案は次期総会で承認が得られた後、2012年1月より適用させていただく予定です。
- ★準会員の皆様もご意見をお寄せください。この機会に是非、準会員の皆様も正会員へご登録変更もお待ちしております。
- ★ご意見・ご質問・ご登録変更等は、事務局（info@jswh.com）までよろしくお願い申し上げます。

現 行	改 定（案）	
◆正会員年会費：10,000円 ◆評議委員年会費：20,000円  WRR冊子 ニュースレター同封	<b>A（冊子＋オンライン）</b> ◆正会員年会費：12,000円 ◆評議委員年会費：22,000円 WRR冊子 WRRオンライン ニュースレター小冊子 別郵送	<b>B（オンラインのみ）</b> ◆正会員年会費：8,000円 ◆評議委員年会費：18,000円 WRRオンラインのみ ニュースレター小冊子 別郵送

※改定案の会費は、現時点での見込みです。